

「ノスリ」観察記録提出

羽はつがいで、営巣している可能性が極めて高い」としている。

頂上から約700m離れた霊園進入道路の工事現場付近にあるモミの木には、3年前

までノスリの営巣が確認されていた。同会メンバーは「進入道路の建設は繁殖行動に入る直前の時期に始められた。周辺の樹木の伐採を進め、営巣地から追い出そうとしている」と指摘している。【高橋和夫】

「自然保護グループ 改めて「工事中止を」

秦野市渋沢の八国見山(319m)の大規模霊園開発問題で、自然保護グループ「渋沢丘陵を考える会」(日置乃武子代表)が10日、付近に生息し、県レッドリストで絶滅危惧種に指定されているタカ科の「ノスリ」の観察記録を同市に提出した。確認された2羽のノスリは繁殖行動に入っているとみられ、営巣期間が終わる8月まで工事中止を

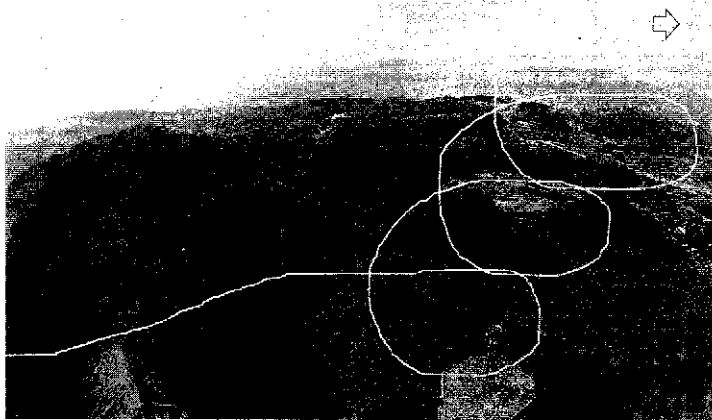
秦野・八国見山 霊園開発問題

事業者に指導するよう改めて申し入れた。

図や写真で示した観察記録によると、ノスリは今年1月に3回、2月に2回、今月1、8日に計3回確認された。八国見山の頂上や霊園建設地の1帯の別々の場所で、2羽がスギなどの樹木に止まったり、上空を飛んだりしていた。1〜3月にメンバーが八国見山を訪れた計7日間で8回確認できたことから、同会は「2

野鳥生態映像で追跡 自然破壊に心痛め

地元の吉田さん



開発が進む八国見山(電波塔付近が頂上)。左下の林道では重機による伐採が進む。白線は今月8日正午ごろの観察で目撃したノスリの飛んだコース=吉田嗣郎さん提供

吉田さんは雪水学者の中谷宇吉郎氏に師事し、雪の結晶撮影で功績を残した岩波映画の監督、吉田六郎氏から撮影技術を学んだ。自然の移ろいや生き物の生態を自ら調査して企画を立案し、国内外で多くの作品を製作してきた。1993年に製作した瀬戸内海の一部に生息するカブトガニの生態に迫った作品などは高く評価され、そうした作品の数々はNHKや民放で放映されている。

自然や昆虫、野鳥の生態をビデオカメラで追い続ける秦野市千村の映像作家でネイチャーシネプロ代表、吉田嗣郎

さんが、大規模霊園開発で変化する八国見山の空撮を続けている。ラジコンで操縦するマルチヘリコプターに小型ビデオを搭載し、今年初めから撮影を始めた。

吉田さんにとって「八国見山は古里」。これまで何度となく山に登り、自然の豊かさに親しんできた。霊園建設による自然破壊に心を痛め、霊園が建設される南面区域や進入道路周辺の環境の変遷がよく分かるように、今後もマルチヘリで追跡を続けるという。【高橋和夫】